

北海道・サハリン州友好・経済協力推進協議会
第17回合同会議録（概要）

1. 日 時：平成28（2016）年6月3日（金）10：00～12：16
 2. 場 所：札幌グランドホテル「新緑」（北海道札幌市）
 3. 出席者：別紙のとおり
 4. 議 長：北海道側協議会副座長 三本国際局長 ゆかり
サハリン州側協議会会長代行 ザギドゥリナ 州経済発展省第2アジア局副局长ドウリナ I.A
 5. 議 事：（1）「北海道とサハリン州との友好経済促進プラン」の進捗状況
（2）意見交換
 - I 北海道側議題
 - ①サハリンの主要プロジェクトの進捗状況について
 - ②食や観光の交流推進について
 - ③道路等建設分野での参入について
 - ④スポーツ交流について
 - ⑤医療交流について
 - ⑥旅客や貨物の需要拡大について
 - II サハリン州側議題
 - III その他（北海道日本ロシア協会）
 - （3）次期（第18回）合同会議の開催について
6. 内 容：以下のとおり

（1）「北海道とサハリン州との友好経済促進プラン」の進捗状況

（篠原ロシア室長）

「北海道とサハリン州との友好・経済交流促進プラン」について、前回合同会議（2015年10月）以降の進捗状況を説明する。

「1 貿易経済及び投資協力」については、昨年10月22～24日にかけて、高橋知事を団長とする北海道経済ミッションを実施。その際、北海道企業とサハリン企業の合弁企業である HODEG 社の「北海道センター」の竣工は、建設分野で両地域の企業同士が交流を積み重ねてきた大きな成果。

また昨年、知事の訪問の際には、日本国政府の協力、そしてロシア政府、サハリン州政府、オーロラ航空の協力により、札幌丘珠空港から初の国際便となる H A C のチャーター機を利用。今後の両地域の航空も含めた交通ネットワークの充実に向けた成功事例となっていくものとする。

また、高橋知事の訪問の翌月（11月）には、サハリン州のデルノヴォイ第1副知事を団長とする行政や企業関係者が来道。北海道企業などを視察され、経済交流の拡大に向かうことを大いに期待することができた。

次に、「2 快適な住民生活環境の形成」の「（1）食の生産と普及の安全性の確保」については、道内企業や地域の方々のご協力により、「北海道フェア」をユジノサハリンスクで開催。サハリンとの通年輸出・貿易に向けた取組で、州政府や企業の方々の協力や支援に感謝する。

「（2）健康・生活の質の向上」では、昨年11月にサハリン州の副首相や社会保護大臣などが、北海道で開かれた「ロシア語弁論大会」にあわせて来道。また、昨年7月、州政府と協定を締結した北海道医療大学が、テーマを決めてリハビリテーションに関する技術交流を計画的に開催。北海道医療大学の医療技術の交流は、毎年、札幌医科大学がコースチャーター基金事業として行っている医師の受入以外には例がない取組。

「（3）寒冷地技術での交流」では、防雪柵や寒冷地商品のほかに、農業用ビニールハウスや道路建設など様々な交流も進んでいる。

「3 友好交流・教育・文化・スポーツ」の分野では、北海道とサハリンとの友好交流を積み重ねてきたお二人の功績をご紹介します。

お一人目は、1998年に当時のサハリン州政府スポーツ委員会とサハリン州柔道サンボクラブ協会と交流協定を締結して以来、20年近くにわたり、サハリン州との北海道との柔道交流を続けている方で、北海道柔道整復師会の萩原正和会長。今春、日本国政府から、社会福祉の増進に優れた業績を挙げた方々に送られる章、藍綬褒章を受章された。この方の功績の中には、柔道整復術や柔道を通じた日露交流も含まれている。

もう一方は、ロシア人で、サハリン日本ロシア協会の元会長であるゾートフ・ニコライ・ミハイロヴィチさん。この方も同じく、この春、日本から叙勲を受賞された。

北海道とサハリンとの友好交流に尽力されたお二人に敬意を表する。

（ザギドゥリナ州経済発展省第2アジア局副局长）

日本は、サハリン州にとって非常にキープートナーと言える存在。極東地域において、様々な州や地方があるが、サハリン州が日本との貿易においてはトップで、2015年の日本との貿易額は60億ドルに上ってい

る。サハリンでは大きな石油・ガスプロジェクトに、日本でも有名な企業が参加しているが、サハリンと北海道だけを見ても、それ以外の様々な分野で、素晴らしいモデルになるような例がたくさんある。サハリン州の州都ユジノサハリンスクの中心部に北海道とサハリンの合弁企業が設計した建物が完成した。また、それほど大きなプロジェクトではないが、成功裏に進んでいるものもある。

例えば、北海道の越浦パイプが北海道銀行の支援を受けて、サハリンで2棟の温室を建設。その温室の構造がしっかりしていることは、今、サハリンで有名になっている。今後、温室については、さらに交流を拡大していきたいと考えている。農業部門については、あとで具体的なプロジェクトのときにお話しするが、別な分野でも交流を進めたいと考える。

交通アクセスは非常に重要な役割を果たしているが、現在、サハリンと日本の二つの都市、札幌と東京が航空路で結ばれている。また、航路も重要な役割を果たしており、皆さんすでにご存じだと思うが、サハリン州政府と稚内市、サハリン船舶会社が、今年中にこの航路が再開できるように対策を取っている。

観光も私たちの重要な分野の一つ。サハリン州を訪れる観光客の中で、日本人が多いことは皆さんご存じのとおり。日本の方々は72時間、ノービザの制度を積極的に使っている。これはコルサコフ港に入るフェリーとクルーズ船の利用者に適用されるもの。今現在、この制度は一方的な措置になっている。ロシア政府が法律を制定して、外国人が観光の目的で入る場合に72時間は査証なしで滞在できる制度。北海道庁にお願いしたいのは、今の一方的な措置が、双方向に、日本側も同じような措置を取っていただけるように、上部機関に話をさせていただきたい。

今、経済交流について話をしているが、私たちの関係の改善には経済交流だけではなく、人的交流、文化的な交流、人のつながりが非常に重要。ここ十年で、文化交流が非常に積極的に展開されるようになった。例えば歴史、文化が一緒に研究されている。

日本映画フェスティバルや博物館交流、様々な劇場などで芸術などの交流が行われている。教育分野についても、大学間の交流が進んでいる。そして、全道ロシア語弁論大会、これが北海道庁の支援のもと札幌で開催されており、サハリンでは、日本語コンクールが開催されたところ。

それから医療・保健分野では、覚書を締結して、それに基づいて禎心会とは技術交流をしており、また研修などが行われている。それから、北海道医療大学とサハリンの医療機関同士の協力関係も進んでおり、2015年から、リハビリテーションのセミナーがサハリンで開催されている。また、今年10月には札幌で医療シンポジウムを開催する予定になっており、その打合せを最近、行ったばかり。

姉妹都市交流も非常に重要な役割を果たしている。両地域には13の姉妹都市に関する協定がある。また近々、アニワ市と剣淵町が姉妹都協定市を結ぼうとしている。私たちの交流には、市民会議が非常に重要な役割を果たしており、ここの場をお借りして、大久保さん（北海道日本ロシア協会会長）、そして中原さん（日本ユーラシア協会北海道連合会事務局長）に御礼申し上げます。このように私たちの交流関係は、多面的な様相を呈しており、これらの交流が成功裏に進むことを願っている。より具体的なプロジェクトについては、この後話していきたい。

(2) 意見交換 ①サハリンの主要プロジェクトの進捗状況について

(篠原ロシア室長)

スポーツ・観光複合施設「山の空気」、それからコルサコフ港、ホムトヴォ空港の整備拡張などについて、進捗状況や今後の展開など、道内企業の参入や協力の可能性についてご教示いただきたい。

(オシポワ州知事観光担当顧問)

「山の空気」はサハリン州にとってシンボリックな存在で、開設は1960年代、ここでスキーのジャンプ競技が行われたことで始まったと言われている。このリゾートは1970年、80年代に発展したが、90年代に落ち込み2000年からまた再生された。

現在、ロシア極東地域において、「山の空気」は、もっとも大きなスキー場である。ゴンドラ、リフトが1基、それからロープトゥが2基あり、14のコースのうち5つのコースでは国際大会の開催認定を受けている。今年の3月にアジアカップが開催された。人工降雪機は大型が2機、移動式は73機取り付けられている。様々なサービスも整っており、スキー教室にインストラクターもあり、荷物の預かり所、スキーレンタルもある。

ここの優位性は空港から11キロメートルと近いということ。また、ホテルからも徒歩で行けるような距離にある。市内には42のホテルがあり、1つ星から4つ星まである。4つ星でもツインで朝食付きで1万円を超えることはない。それから徒歩圏内に300くらいの飲食店がある。それから動物園と、9つの博物館、劇場が一つある。シーズンは12月初旬から4月下旬まで。意外と冬も寒さが厳しくなく、平均でもマイナス7度から11度くらい。雪はたくさん降るため、スキー場の積雪深は2メートルほど。昨年は約8万人の観光客がこのスキー場を訪問した。毎週、いろんなイベントが行われており、伝統的に続くようにしたい。

「山の空気」スキー場はロシア政府から、先行発展地域の指定を受けている。今後、サハリン州政府から100億ルーブルの投資が予定されており、民間の投資も60億ルーブル計画されている。次のシーズンに向けて、ゴンドラ、リフトをあと2基増設し、麓、中腹、それから頂上にレストランを作る予定。観光客、利用者

の利便性を高めるため、ホテルからスキー場までの無料バスも予定。スキー場と「ミネラルニエ・ウォーディ」というシネゴルスクのサナトリウムにも無料バスを走らせる予定。スキーをした後、疲れた体を癒すための温泉や泥温泉の療養についても考えている。現在、スキー場から来て、シネゴルスクの温泉を使う人たちに対して、プール1時間、それからサウナ1時間について300円の利用料金を設定しようと考えている。それにマッサージを加えても500円程度。リゾートの拡張計画は2020年までで、最終的には9つのゴンドラリフトを増設する。そのうちの二つは今年中に作る。現在、滑走距離は23キロだが、最終的には91キロまで伸ばす。また、利用者のためのスキービレッジを作り、ホテル、スパリゾート、レストランを併設する予定。

日本側の投資をロシア側は期待している。先行発展地域内に住所を登録して活動する企業には、優遇税制が適用される。また、年金や医療などの社会保障費用の支払いが、30%から7.6%まで下がる。また、利潤税（法人税）は、利益が出てから5年間は、免除される。その後の5年間は10%。優遇税制がなければ税率は20%。税務署の検査は、本来なら30日間、検査を受けることになっているが、これも先行発展地域内で住所を登録して活動すると、15日で済む。それからインフラ及びライフラインの建設については、国が担当する。それから付加価値税については、一部が企業に戻ってくるまで、一般的な手続きは3か月掛かるが、先行発展地域になると15日で付加価値税の還付が行われる。それから、建設工事の際に環境アセスメントについても、先行発展地域になると45日以内で終わる。このように、先行発展地域で活動する企業については、税金面で多くの優遇措置がある。それから様々な行政手続きも簡素化される。

（デグチャリョフ州運輸・道路事業大臣）

コルサコフ港については、7月15日から、稚内・コルサコフの航路が再開される。オペレーターはサハリン船舶会社で、船のタイプは確認中だが、これまでより簡素だが、スピードは前より速くなる。そのためどうなるかは分からないが、稚内まで2時間から2時間半で行けると期待している。乗客数は、70人未満を考えており、基本的には客船がメインとなる。貨物については、状況に応じ、荷物がたくさんあれば、少し甲板を空けることも考えたい。

コルサコフ港については、皆さんからターミナルについて不満があることは承知している。現在、コルサコフ港のターミナル建設に向けたフィージビリティスタディ（実現可能性調査）と設計のための基本的な調査を実施している。今年中にはターミナルの基本設計を終わらせたい。来年の末までには、旅客ターミナルが完成する可能性もある。実現すれば文明的な航路ができあがり、北海道とサハリンがまた結ばれることになる。完成したら、さらに発展させて改善していきたい。

航空路については、昨年、重大な財政的な措置を取り、今年から滑走路の修理を始めている。15日から本格的に始まるが、滑走路のアスファルトコンクリートの施工を計画し、幅を60メートルまで広げる予定。また、誘導灯の関係も新しくし、今年11月には工事を完了させる。これによりほぼ全ての機種 of 航空機を受け入れることができる。ボーイング767まで可能。

ターミナルについては、新ターミナルの設計が始まったところ。ロシアの設計会社が入札で落札したが、その会社はすでにカムチャッカ、ノボシビルスクなど他の町で設計の経験がある。今年中には詳細設計まで終わると期待しており、設計ができ上がれば、建設業者の入札を行う。そのための予算もすでに確保している。設計と建設については、三井や双日と交渉を進めており、6月末くらいに東京を訪問し、協定を結びたいと思っている。場合によっては日本側に株の一部を保有してもらい、取締役会に入ってもらおうとも考えている。

それからオーロラ航空については、航空運賃を少し下げることが検討されており、札幌～ユジノサハリンスクの団体料金について、現行料金の3分の1くらいにすることで話を進めている。そのためノービザの制度や運賃の値下げが実現することは、利用者にとって非常に魅力的な要素になると考える。

（三本国際局長）

オーロラ航空の運賃については、いつ頃、結論が出る予定か。

（デグチャリョフ州運輸・道路事業大臣）

知事から指示が出されており、1か月くらいには結論は出る。ただし、これは行政側だけの問題ではなく、旅行会社の問題でもあり、十分な搭乗率を保証できるのかどうかにも懸かってくる。

（オシボワ州知事観光担当顧問）

オーロラ航空と旅行会社のビートモ、メガプラス、サンライズと協定を結び、7月1日から動きだそうと調整している。

（篠原ロシア室長）

食や観光の交流についてだが、昨年、北海道センターの中に、北海道ショールームをPR拠点として設置したところ。今年も北海道フェアなど、サハリン州で北海道の企業の取り扱う商品の展示や観光情報を発信したいと考えており、サハリン州政府の協力をお願いする。

(ザギドゥリナ州経済発展省第2アジア局副局长)

両地域とその住民にとって、お互いをよく知るために、それらの事業が非常に役に立っているの、われわれとしても支援したい。物産展は、すでに何度か開催されているが、大変人気を博しており、物産展があると(会場の)シティモールに人がどんどん集まっている。物産展では、食品の展示だけでなく、旅行会社も参加し、旅行商品をいろいろとコマーシャルしている。実は、サハリンで観光情報センターを開設する予定があり、日本から来る方々やその他の外国の方々に私たちの地域をもっとよく理解していただけるよう努力したい。

(オシポワ州知事観光担当顧問)

2016年9月1日までに観光情報センターを設置する予定。このセンターは24時間営業で、5つの言語でサービスを展開。パンフレットやカタログを無料で、空港に到着した方々がすぐに受け取れるようにする。観光情報センターの役割、課題は、基本的には日本や他の外国の方々にサハリンの観光について正しく知ってもらうことで、無料で1日観光、2日観光、3日観光までのサービスを提供できるようにしたいと考えている。無料観光についてはサンクトペテルブルグで先例があり、その経験を応用したい。サンクトペテルブルグでは無料でプロのガイドがついたエクスカージョン実施し、観光客が増加した実績がある。また、観光ナビゲーションや観光案内の標識の充実、レストランメニューの多元語化や写真を入れて分かりやすくしたい。

(三本国際局長)

5言語での表示を考えているとのことだが、何語か。

(オシポワ州知事観光担当顧問)

ロシア語、英語、日本語、韓国語、中国語。

(篠原ロシア室長)

道路については、進んでいることについて承知しました。2年前の合同会議でもテーマに上がったが、トマリ地区に試験設置されている防雪柵に代表される、道内の技術を利用した道路と建設分野について協力をお願いしたい。

(デグチャリョフ州運輸・道路事業大臣)

防雪柵については、実際に試験設置をして非常に良い結果が出たと承知。ただ、対ドルレートが非常に悪くなったため、関税を含めた設置費用が非常に高くなってしまふ。昨日、その会社の方とレセプションの際にお会いしました。資料を見せていただいたんですけども、そうしましたら、カラマツも材料として使って、防雪柵を作っているということが分かりました。ですから、ノースプランさんで、金属ではなく、カラマツを使って作った場合どれくらいになるのかということ計算していただいて、教えていただければまた検討したいなと思います。そういうことで、その材料で作るということになれば、わざわざ日本から材料を持ってこなくても、一部はサハリンで作ることができるんじゃないかと思うんです。もちろん、日本の会社の利害を損なわない形で。まずこれが防雪柵ですね。

次は、昨日から道路の関係で動いているわけなんですけれども、ぜひ私からも質問というより、お願いになります。北海道庁に道路建設、または道路建設に関するコンサルテーションについて、北海道の企業がサハリンで私たちに、サハリンの企業に協力していただけるような形の支援を頂きたいと思っています。道路部門の協力事業項目の一つに、このことを入れていただければと思います。この分野の協力はこれからさらに拡大していきたいとわれわれとしては考えておまして、日本の専門家に来ていただいて、例えば品質管理について、助言を頂くとか、それ以外のいろんな分野で日本の専門家に加わっていただきたいというふうに考えておりますので、その辺について話をしたいし、それからいろんな問題について検討したいと考えています。何かご質問あれば。

(篠原ロシア室長)

道路について、項目に入れるというのは、プロジェクトリストの項目に入れるということを検討してほしいという理解でよろしいでしょうか。

(デグチャリョフ州運輸・道路事業大臣)

そうです。

(篠原ロシア室長)

それではプロジェクトリストに入れることに対する検討については、この後、事務局同士で詰めていきたいと思っております。道庁とサハリン州の事務方で、整理をしていきたいと思っております。

(デグチャリョフ州運輸・道路事業大臣)

どういう表現にするかは、事務局のほうで詰めていただければと思います。

(三本国際局長)

この件で他にご質問等ございますでしょうか。それでは時間もございますので、続きまして、スポーツ交流について北海道側から説明をお願いします。

(篠原ロシア室長)

両地域で進められているスポーツ交流についてですけれども、青少年のアイスホッケーやバスケットボールなどこれまでいろいろなスポーツ交流を行ってきましたが、新たな種目についてもこれから交流の発展に向けて、協力をお願いしたいと思います。具体的にはまた、今後州政府と道庁でやり取りしたいと思います。今日はそういう項目、種目の拡大の方向を検討してということでございます。

(ザギドゥリナ州経済発展省第2アジア局副局长)

もちろんわれわれとしては、この分野での協力を拡大させていくことに賛成です。道庁側に具体的なお考えがあるのであれば、それを形にまとめていただいて、送っていただければ関係官庁にそれを投げたいと思います。

(三本国際局長)

それでは後ほど、事務局で具体案等を提示して、調整させていただきたいと思います。この件について、ご意見ご質問等ある方いらっしゃいますか。それでは続いて、次の項目に行きたいと思います。では、医療交流について、北海道側から説明をお願いします。

(篠原ロシア室長)

先ほどザギドゥリナ副局长のほうからもご案内がありましたけれども、禎心会の民間交流、これは存じております。先ほど10月にシンポジウムの話が出ておりましたけれども、これについても病院同士、道内の大学同士の間で作業が進んでいると思いますが、正式に今後、州政府と道庁でも協力体制を作っていきたいと思っておりますので、協力をお願いしたいと思います。

(ザギドゥリナ州経済発展省第2アジア局副局长)

この件については、シンポジウムについては打ち合わせを行いまして、その時は、サハリン州政府は副首相のスタルツェワがこの打ち合わせに参加しておりまして、彼女の意見も全面的に支援したいということでございますが、あらためてそれをお伝えします。

(篠原ロシア室長)

ありがとうございます。

(三本国際局長)

ありがとうございます。この件に関しまして、ご意見等ございましたらと思いますが、本日、北海道医療大学の佐藤講師が参加されていますので、ご発言等どうでしょうか。

(北海道医療大学 佐藤講師)

北海道医療大学を代表しまして、私、佐藤から本学の事業に関して、簡単に紹介させていただきます。昨日、配付しました資料にこれがありますので、こちらをご覧くださいいただければと思っております。

昨年7月に、サハリン州保健省と協定書を結びまして、また今年7月には歯学分野での協力を進めるために、ハバロフスクの極東国立大学と国立医科大学と学部間協定を結びました。今年は、ハバロフスクとの交流が活発になりつつありますが、この機会を与えてくださったのが、昨年、ロシア極東の道の合同会議、ここで、ハバロフスク代表の方とお話することができたのがきっかけとなりました。このような機会を与えてくださった北海道庁の関係者の方々にこの場を借りて、あらためて感謝申し上げます。昨年から今年に掛けて、このように事業が成功裏に進めることができたのは、サハリン州政府の保健省、州政府関係者の方々と北海道庁の関係者の方々のサポートがあって、成り立ったものと感じております。当方から、一つ要請なのですが、今後とも、保健省との関係ですね。こちらの要望に柔軟に対応していただけるということサハリン州政府の方々にご依頼申し上げたいと思います。最後に、本学のロシア極東での取組にぜひ期待していただきたいと思っております。ありがとうございました。

(ザギドゥリナ州経済発展省第2アジア局副局長)

どうもありがとうございます。本当に医療大学が重要な仕事をされております。サハリン州の州民の健康のために重要な仕事をされております。住民のリハビリテーションについて、セミナーを何回か開催してくださいとありますが、サハリンの医療にとってもそれは重要なことです。必ず、うちの保健省にはそちらのご希望を、今の依頼事項を伝えます。そして、またわれわれとしても、あらゆる形で支援していきたいと思っています。

(三本国際局長)

ありがとうございます。続きまして、旅客や貨物の需要拡大につきまして、北海道側から説明をお願いします。

(篠原ロシア室長)

この件に関しましては、すでに最初の段階でお答えを含めて、デグチャリョフ大臣から頂いておりますので、私からの質問は割愛させていただきたいと思っております。

(デグチャリョフ州運輸・道路事業大臣)

非常に詳しく私から説明させていただきましたけれども、これについては両地域の知事会談を受けて、うちの知事から出された指示なんですね。ですから、見て分かります。非常に迅速に、そして、しっかりと今、進んでいます。コジェミャコ知事はこの問題を非常に厳しく言うておりましたので、たぶん、本人が皆さんのほうに約束したものだと思っております。われわれ皆さんとともに、パートナーですから、自分たちの約束したことは必ず守るようにしております。今も話をしました運賃を下げることとか、それからフェリー航路の話、それからコルサコフ整備の話なんです。そういうことを順次進めていきますと、やはり双方向の交流がさらに発展していくものだと私は思っています。

それからずっと前から、日本側から言われている話なんです。サハリンにクルマを自分たちで持って、サハリンを走破したいというそういう提案がずっと前からなされています。実はそれがなかなか実現できなかった理由が、コルサコフ港でクルマを降ろせるような条件が整っていなかったということが挙げられるわけなんです。実を言うと、関係機関とは全て合意ができていたのに、港自体がその用意がなかったということで実現できなかった。ですから今お話ししたことが全てできれば、クルマの走破については、問題が解決すると思っています。それと、道路の舗装については、サハリンの半分くらいまではもう終わりました。基本的な計画で、年に60キロの舗装、これが計画されておりますので、クルマで来ていただいても、より快適なドライブができるだろうと思っております。以上です。

(三本国際局長)

ありがとうございます。この件につきまして、他にもう少しくわしく聞きたい方、いらっしゃいますか。それでは、続きまして、サハリン州側からの、事前にご提案を頂いてはませんが、もし何かご提案があればお願いいたします。

(ザギドゥリナ州経済発展省第2アジア局副局長)

どうもありがとうございます。共同プロジェクトのこのリストについては、結構長い間皆さんと協議を続けてまいりました。北海道から具体的な提案も受け取っておりますが、あと、この場で追加してほしいという話も先ほどありました。追加項目については、道路建設分野における両地域の企業が参加した共同プロジェクトへの支援。それから、サハリンの道路の修繕、修理、維持に対する日本の技術導入への支援、それと実はわれわれから協力をさらに拡大する中で、農業分野でいくつかお願いしたいことがございます。それはうちの農業大臣のクジメンコから説明します。

(クジメンコ州農業大臣)

尊敬する皆様。農業の発展については、サハリン州の施策にとって重要な一つであります。今現在、農業分野の大規模なプロジェクトがいくつか進行しております。酪農畜産のプロジェクトだったり、それから養鶏なんですけれども、これも採卵及びブロイラー関係、肉を採るための養鶏です。それと、鴨肉とウズラ、これも今、やっているところです。それから養豚場、これも5万頭の豚を飼う養豚場のプロジェクトが進んでいます。それと養豚関係で品種改良、遺伝子センターが今、作られようとしているところですが、ここにはヨーロッパの企業も関わっています。あと、配合飼料のサイロ、これが今年中には建設が始まります。それから、農作物の卸売り・物流センター、これを作る予定です。それから土地改良のための石灰の採掘を考えています。それから野菜を栽培するための8ヘクタールの温室農場の建設が進んでいます。それ以外の計画ですが、バラを栽培する20ヘクタールの温室があります。今話したのはもうすでにでき上がっている計画ばかりです。

サハリン州の戦略的発展プログラム、これについて言います。農産業分野について、様々な投資プロジェク

トがありますので、ぜひ日本の方々にインベスターとして参加していただきたいと思っています。実はこれからの農業の発展のために必ず必要になってくるのが、品種改良なんですね。そういう点で、北海道にある野菜、それから豆類、それと飼料作物、これについて、サハリンでそれが成長するのかどうか、そういう試験をやっていたきたいと考えています。2013年9月6日に、品種改良のための試験を行う覚書が、サハリン州の農業省とタキイ種苗で交わされています。残念ながら協力がうまく進まなかったのですが、ぜひ種苗を生産しているところと協力関係がこれから進むようにぜひご支援をお願いしたいと思っています。それ以外に、玉ねぎの種の営農技術、それから農業機械、この点についてのご支援をお願いしたいと思っています。それと、日本のビニールハウス、これをこれから広く活用していきたいと考えておりますが、その技術がどのようなものなのか、そしてその品質、値段がどうなのかということ、本日から検討を始めたいと思っています。それと知事会談を受けて、コジエマコ知事から指示が出ているのですが、北海道から、乳牛及び種牛、これをサハリンに持ってこれないかということで、また、受精卵及び種牛の精子、これを導入したいと思っています。それとサハリンの農業組合と北海道の農業企業プラス建設会社の協力を得て、サハリンにおける土地改良、これについても援助を受けたいと思っています。今後の建設的な協力関係を期待いたします。以上です。

(三本国際局長)

それでは北海道側からコメントがあればお願いします。

(篠原ロシア室長)

ただ今、サハリンから個別具体的なお話をたくさんお聞きいたしました。すばらしいプロジェクト、それから将来を見据えたサハリンの発展のためのプロジェクトがたくさん含まれていると思います。今日お話された一部については、すでに皆様の滞在中に北海道庁の専門家やあるいは民間企業の協力を得て、ご覧になっていたか、お話しをさせていただいているかと思えます。ただ今のお話の中に、道庁内にも各部専門セクションがあるので、私からその旨を伝えて、今後どのようにしていくかは、やはりこれは州政府と道庁の事務方で、もっとくわしい情報交換をして整理していきたいと思えます。

(ザギドゥリナ 州経済発展省第2アジア局副局長)

今、いろんな提案がなされ、そしてまたプロジェクトについても語られましたけれど、これについてはあらためてリストを作って、お互いに交換してそしてロシア室と私たちの事務局で今後詰めていきたいと思えます。

(三本国際局長)

それではそのようにお願いいたします。これで議題については全て終了いたしました。全体を通じまして、ほかにご発言をご希望される方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他といたしまして、北海道側から、大久保会長、一言お話しされますか。

(大久保北海道日本ロシア協会会長)

私は、北海道日本ロシア協会会長の大久保です。貴重な時間を頂き、ありがとうございます。先ほど、北海道側篠原室長より、ご紹介がありました前サハリン日本協会会長、ゾートフ・ニコライ・ミハエルビイチ氏が日本政府より旭日章受賞をされました。このことは日本とロシアの平和、親善、そして北海道とサハリンの友好交流の功績が認められたことと喜んでおります。この場で皆様方とともに喜びを申し上げたいと思えます。

現在進行中の3点について申し上げたいと思えます。まず第1点は、第18回青少年サハリン・北海道「体験友情」の翼について申し上げます。従来はこの行事は、サハリン航路の船で行って、「平和の船」としておりましたが、船が撤退されたために、「平和の翼」と変更いたしました。本年の日程は、来月の、7月27日から8月の3日までの7泊8日の受入であります。3泊4日のホームステイを含め、北海道側の具体的な受入事業が進行していることも報告しておきます。すでにシャローヒナ・リジャ・ミハイロヴナ団長を含め、青少年38名、指導者5名、計43名の名簿も到着しておりますし、今、私どもは、ホームステイ等の選考に掛かっているところであります。以上、青少年についての報告をいたしました。

次に第11回、北海道・サハリン州市民交流会議について申し上げます。本年度のテーマは、「産業観光の促進に向けて」とサハリン州側と合意されております。期日は9月の14日から17日までの3泊4日で、札幌市で開催します。開催日は16日ではありますが、事前に15日には視察等を計画しております。本会議の討論の内容等につきましてはイーナさんのお渡しいたしておりますので、後でご検討いただきたいと思えます。私どもの受入はほぼ完了しておりますが、本年は特にサハリン側の強い要望もありまして、産業観光についてをテーマにいたしました。充実した討論を展開し、実りの多い、第11回市民交流会議を成功裏に終えたいとして、今準備しておりますのでご期待ください。

3点目は、「第51回サハリン平和の翼」であります。過去50回の歴史を持つ平和の船は、これは先ほど申し上げましたが、船が撤退されたので、「平和の翼」に変更いたしました。日程は9月の28日から、10月の1日、3泊4日をサハリン州を訪れることにしております。団の編成は45名であります。航空機、宿泊

先、訪問先等については、すでに決定しておりますが、サハリン州の皆様方のご協力をさらにお願ひしたいと思います。特に今回申し上げたいことは、これは私どもの、直接の事業ではありませんが、皆さんご存じだと思いますが、平和観音像の建立式を今年度、9月30日に行うことを州政府、ユジノサハリンスク市と合意に達しました。8年間の長い時間を掛けましたが、完成のために、この15日から18日まで私、大久保と技術者の社長と二人でサハリン州を訪問し、打合せをすることになっております。この点につきましても、サハリン州の皆様方、ユジノサハリンスクの皆様方に大変お世話になりましたことを感謝申し上げます、私ども成功のために全力を尽くしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上、申し上げました「体験・友情」の翼、市民交流会議、「平和の船」は、当初は、サハリン日本協会と私ども、日本ロシア協会が主催しておりましたが、今は、州政府の皆さんと私どもロシア協会とがこの事業を行っております。これまでの長い歴史の間でトラブルもなく、事故もなく、遂行してきたことはサハリン州の皆様方のご協力の賜物と思ひ、深く感謝を申し上げます。また、この事業の成功のために、北海道庁国際局ロシア室の皆様方にも大変大きなお力添えを頂いておりますことに、感謝とお礼を申し上げ、私の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

(ザギドゥリナ 州経済発展省第2アジア局副局長)

こちらからも、あらためて北海道ロシア協会に御礼申し上げたいと思ひます。この青少年の「体験・友好」の船、また、「平和の船」、そして、市民交流会議と両地域の関係発展のために本当にご尽力されていただいて、それに対して御礼申し上げます。これは本当に民間外交として、非常に重要な交流だと思ひますので、サハリン州政府といたしましても、あらゆる支援をしたいと思ひます。実は、観音像の設置については、サハリン州政府の諮問委員会でも検討いたしまして、場所については特定いたしました。ですから、ユジノサハリンスク市役所ときちんとスケジュールどおり仕事が進んでいくと思ひます。

(三本国際局長)

ありがとうございました。それでは、これで全ての議題を終了したいと思ひます。最後に次の第18回合同会議の開催について協議します。ロシア側から提案をお願ひいたします。

(ザギドゥリナ 州経済発展省第2アジア局副局長)

私どもの協議会の今までのやり方どおり、次回の友好・経済推進協議会合同会議については、2017年にサハリン州側で開催すると、ここであらためて確認したいと思ひます。時期については、後で実務的に詰めたと思ひます。

(三本国際局長)

それでは、北海道側は異議ありませんね。

(篠原ロシア室長)

異議ございません。

(三本国際局長)

それでは、次回合同会議はユジノサハリンスク市で、来年開催ということで合意されましたので、よろしくお願ひいたします。

以上をもちまして、全ての議事を終了いたします。皆様のご協力に感謝申し上げます。少し時間を過ぎましたが、本日も前回に引き続きまして、大変内容の濃い会議ができたと思ひます。お互いがウイン-ウインの関係での交流拡大を一緒に目指していきたいと考えております。ザギドゥリナ副局長からも一言どうぞ。

(ザギドゥリナ 州経済発展省第2アジア局副局長)

今回参加した皆様にあらためて御礼申し上げます。本当に今日は有意義な対話ができたとお願ひしております。この場でサハリン側もそれから北海道側も、様々な提案がなされました。あらためて今後、共同プロジェクトの推進に向けて、北海道庁の皆様にご支援をお願ひして私の挨拶といたします。

(三本国際局長)

では、篠原事務局長にマイクを返したいと思ひます。

(篠原ロシア室長)

ありがとうございました。それでは、双方の事務局同士で、本日の議事録の内容を調整して取りまとめさせていただきますので、このまましばらくお待ちください。

それでは本日の議事録内容を取りまとめておりますので、双方の代表者の方は議事録の署名をお願いします。署名台に移動をお願いします。

それでは、双方の代表者の方は、内容をご確認の上、署名をお願いいたします。

【署名】

それでは、議事録の交換をお願いいたします。

【議事録交換】

どうもありがとうございました。以上をもちまして、北海道・サハリン州友好・経済協力推進協議会第17回合同会議を終了いたします。皆様どうもありがとうございました。